

新石垣空港から与那国島までの旅客機「ボンバルディア DHC-8-Q400CC」の特徴は、貨物室が広いことです。離島便は旅客の運送はもちろんのこと、離島の生活を維持する為に、郵便物や物資の輸送という役割も担っています。その為、客室後部に大きな貨物室を有するのです。貨物室を大きくした結果、旅客定員は 50 名ちょうどです。50 名以下の旅客定員の場合、客室乗務員は1名でも運行できるというメリットもあるのだそうです。実際に今回の与那国往復では、往きは2名の客室乗務員でしたが、帰りの便は1名でした。

私は与那国行は左側の窓際を予約しました。航路を考えると、左側に八重山の島々がよく見えると思ったからです。席は機体中部の翼の部分でしたが、実はボンバルディア機は「高翼機」で、客室よりも上に翼があるので、どの座席からも下がよく見えるのです。

思った通り、離陸から数分で眼下に「竹富島」が見えました。隆起サンゴ礁の島独特の、砂浜に囲まれた丸い形状がよく観察できました。飛行高度も低いので、昨日自分が歩いた道や描いた建物、小学校の校舎や建物まで、ジオラマ模型のようによく見えました。

次に遠くに見えたのは「黒島」です。石垣島からの船の便も少なく、これといった観光名所もないので、訪れる観光客が稀な「不遇な離島」です。空から眺めて、次回は行ってみたいと思いました。次に眼下に見えてきたのが「小浜島」です。今回「行きそびれた」離島です。砂浜が美しいことで知られますが、島の東側の半島に大きなゴルフコースがあるのが、ちょっと残念です。

小浜島の至近距離にある大きな島が「西表島」です。西表島には空港がないので、昨日も船で往復しました。西表島だけは、島全体が雲に覆われて、ほとんど見えませんでした。時刻表では石垣発 10:05、与那国着 10:35 で飛行時間は 30 分ということになっていますが、実質的に空を飛んでいるのは 25 分ぐらいで、離陸体制が終わったら、もう着陸態勢という感じでした。定期航空路線なのにまるで「遊覧飛行」のように楽しく、ちょっと得した気分でした。

